

Book Review

ペリオバカ養成講座 ～学びの門戸を開くための100の質問～

山本浩正 著

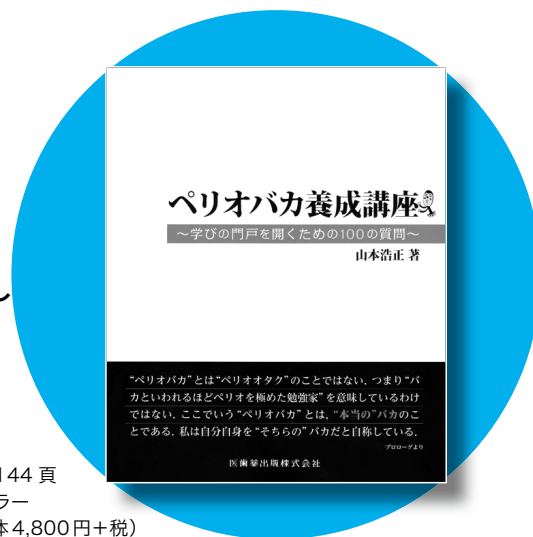


Reviewer

永田俊彦 Toshihiko Nagata

(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部歯周歯内治療学分野 教授)

AB判, 144頁
オールカラー
定価(本体4,800円+税)
医歯薬出版刊



山本浩正氏の著書はいつも興味深くおもしろい。本書は、誰もが笑ってしまうようなイラストを交えながら、歯周病の病態と治療について多彩な観点から解説し、理解度を明確にするために、「100の質問」という形をとったことで容易に入り込める一冊となった。現在の歯周病診断や歯周治療の課題を適切に指摘しつつ、現時点での最新知識を提示してくれる、実は、とてもアカデミックな本である。本書を通じて、日々の臨床で切磋琢磨しておられる山本氏の横顔が自然と想像されるのがよい。歯周病の知識を再確認したい歯科医師および歯科衛生士には必読の一冊であろう。著者の言う「自分が何も知らないことを自覚し、知らないことを知りたい」という姿勢は、日々研究に取り組んでいる、われわれ大学人の哲学と一致するし、「コラム：ペリ男のつぶやき」は、中年男の人生観が垣間見えて、おおいに共感できる。

第1章「歯周組織検査編」では、歯周ポケットを徹底的に分析してブ

ロービングの極意を追求し、第2章「細菌編」では、得意の細菌学的、生化学的見地から歯周病病態論を展開、第3～12章では「SRP」「歯肉退縮」「リスク」「根分岐部病変」「骨欠損」「口臭」「咬合性外傷」「歯周外科」「抗菌薬」「メンテナンス」に関する臨床課題を提起したうえで、文献引用をしつつ、理にかなった解答を用意している。上記した臨床項目は、すべてにおいて教科書的記載ではなく、実践的かつ理論的であり、これが山本式説得法の特徴でもある。

一般に、歯周病は複合的な疾患であり、感染症、免疫疾患、遺伝疾患、骨代謝疾患、生活習慣病など、多くの観点から病態を論じることができる。大学教員である私が言うのも変だが、山本氏の著書にわれわれは啓発されることが多い。なぜなら、著者は、歯周病の病態を多方面から理解し、それらを理路整然と歯周病の臨床に活かして、自己点検評価まで加えて、まさに大学の臨床教室で行うような仕事を堂々と

一冊の著書として具現化しているからである。山本氏の強みは何といても、上述した、多方面の知識を自らの知識として把握している点にある。本文中で書かれているちょっとした一文が、論文を自ら読んだうえでの理解かどうかは、学位論文の審査や英語論文の査読を行っている者として容易に判別できる。「知らないことを知りたい」という著者のアグレッシブな学習意欲は、このような一文に結実している。

細菌学から発した山本氏のアカデミックヒストリーは、本書を出版することで、本人自身が知識の再確認をしているであろうし、同時に、次のヒストリーを築く礎になっていることは間違いない。本書は臨床医として匠の技を示す本ではなく、ペリオに悪戦苦闘する医療人に対するアカデミックな啓発本であるとともに、著者の臨床哲学を示す自叙伝でもある。

長年医療に携わってきた一個人の人生読本としても、示唆に富む一冊である。